

新技術（TRD工法）で江戸川右岸の堤防強化を求める陳情

（建設委員会付託）

受理番号 第110号

受理年月日 平成24年10月16日

付託年月日 平成24年10月26日

陳情者
.

陳情原文 私たちはJR総武線新小岩駅付近から下流の中川左岸は、連続する鋼矢板で補強されている、と仄聞いたしております。これは従来の堤防を土砂で固めるそれに比べ、新しい技術といえるでしょう。

新技術といえばTRD工法(等圧式ソイルセメント地中連続壁工法)があります。これは土にセメントを混ぜて強化、地中に連続的な壁を構築する工法です。例えば幅は50～80cm、深さは20～30m、費用は前記で1m当たり50万円程度です。幅も深さも自由に変えることが可能で、液状化対策、地盤の補強、地下水、浸透水の遮断、津波対策にも有効です。

利根川の治水基準点、八斗島から銚子まで両岸約400km、江戸川は関宿から東京湾まで両岸約100km、合計500kmが2,500億円で完成させることができます。北小岩の2.2kmに1,700億円を要する工法に比べ、はるかに安価で効果的ではないでしょうか。

この工法の特徴は

- (1) 区画整理事業の必要がない。
- (2) 住宅を壊す必要がない。
- (3) 新たな盛り土の必要がない。
- (4) 住民を長期間、移転させる必要がない。

目下、スーパー堤防事業には国の予算が執行されていません。この時期にゆっくりとTRD工法を研究され、江戸川右岸の堤防強化のためTRD工法(等圧式ソイルセメント地中連続壁工法)を採用されますことを陳情いたします。